



第55回宝塚記念(G I)優勝馬ゴールドシップ

豪快な走りで余裕の連覇

ゴールドシップ Gold Ship

阪神大賞典を圧勝したものの、続く天皇賞(春)は出遅れもあり、期待を裏切る凡走。迎えた宝塚記念、ここは負けるわけにはいかない。ゴールドシップの置かれたそんな状況は、1年前ととてもよく似ていた。

手綱は初コンビとなる横山典弘騎手の手に委ねられた。気難しいタイプのパートナーと信頼関係を築くため、3週連続で栗東へ赴いて調教に跨るなど入念な準備を整えていたことや、何より前年の圧勝が示すようにコースの相性は抜群。当日、途中で稍重から良に回復はしたもの、まだ湿り気が残りタイムのかかる馬場も得意中の得意ということもあり、ゴールドシップは1番人気に推されていた。続く2番人気は、屈腱炎による長期休養から復帰以降、安定した走りを見せているウインバリアシオン。前年は1番人気ながら3着に敗れているジェンティルドンナは、3番人気にとどまっていた。

レースは、ヴィルシーナによるゆったりした先導で始まった。ゴールドシップは、スタート直後は最後方ながら、スタンド前の直線を300mほど進んだあたりから前へ行く気を見せる。横山典弘騎手も、その邪魔はない。どの馬も折り合いを気にして抑える中、1頭だけ気持ち良さそうに大外を上がっていき、1コーナーを回る頃には早くも4番手にまで上がっていた。

中盤過ぎから徐々にペースアップする流れは、後方のウインバリアシオンやジェンティルドンナには厳しいものとなった。直線、ゴールドシップは外から悠々と先頭に立つと、熾烈な2着争いを尻目にぐんぐん後続を引き離す。粘るヴィルシーナを交わして2番手に上がったカレンミロティックに付けた着差は3馬身。前年の3馬身半差に続く2年連続の圧勝だった。

55回目を迎えた宝塚記念の歴史における、初めての連覇という偉業。それはまさに「人馬一体」と呼ぶべき、豪快で奔放な走りによって成し遂げられたのだった。



第55回宝塚記念(G I)

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	ゴールドシップ	牡5	58	横山典弘	須貝尚介	2:13.9	①	4 3 4 4
2	カレンミロティック	駄6	58	池添謙一	平田修	3	⑨	3 3 3 3
3	ヴィルシーナ	牝5	56	福永祐一	友道康夫	1 1/4	⑧	1 1 1 1
4	ヒットザターゲット	牡6	58	武 豊	加藤敬二	クビ	⑫	11 10 9 9
5	デニムアンドルビー	牝4	56	浜中俊	角居勝彦	ハナ	⑥	6 6 4 4
6	フェイムゲーム	牡4	58	北村宏司	宗像義忠	クビ	⑦	2 2 2 2
7	ウインバリアシオン	牡6	58	岩田康誠	松永昌博	3/4	②	8 8 9 9
8	ホッコープレーヴ	牡6	58	戸崎圭太	松永康利	ハナ	⑤	9 8 7 6
9	ジェンティルドンナ	牝5	56	川田将雅	石坂正	1 3/4	③	4 5 6 6
10	トーセンジョーダン	牡8	58	内田博幸	池江泰寿	1 1/4	⑪	10 10 9 9
11	メイショウマンボ	牝4	56	武幸四郎	飯田祐史	クビ	④	6 6 7 6
12	ヴェルデグリーン	牡6	58	田辺裕信	相沢郁	4	⑩	11 12 12 12

単勝①270円 優勝①170円 ⑤810円 ③820円 枠連(5-8)660円

馬連⑤-⑪8,990円 馬単①-⑤10,210円 ワイド⑤-⑪2,130円 ③-⑪2,630円 ③-⑤9,110円

3連複③-⑤-⑪57,870円 3連単①-⑤-③251,440円

ハロンタイム 12.9-11.6-11.9-13.2-12.8-12.1-12.0-11.8-11.7-11.8-12.1

通過タイム 600m 36.4-800m 49.6-1000m 1:02.4-1200m 1:14.5-1400m 1:26.5-1600m 1:38.3-

1800m 1:50.0-2000m 2:01.8

優勝馬 ゴールドシップ

2009.3.6生 父ステイゴールド 母ポイントフラッグ 母の父メジロマックイーン

日高・出口牧場生産 馬主:小林英一氏